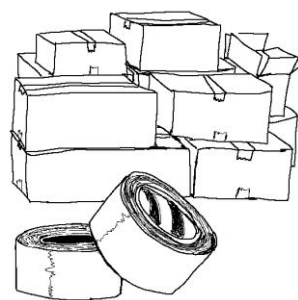


十二月のテーマ

心を整理する



え・古屋智子

年の瀬に 感謝を深める

今

月の「今週の倫理」のテーマは、「心を整理する」です。

年の締めくくりにふさわしいテーマですが、逆に、心が整理されていない状態とは、どのような場合が考えられるでしょうか、

例えば、病気になった時や、事業上でトラブルが起こると、心が不安に満たされ、動揺します。こうした状態は心が整理されているとはいえないでしょう。また、社員が成果を上げられない、家族が病気やケガに見舞われるなど、平穏な状態を崩すような出来事が起きると、多くの人は心が整理されていない状態になるものです。

そうした出来事が起こらなければいいのですが、人が生きていれば、平安ばかりでは済まされません。まして経営者であれば、背負うものが大きい分、なおさらでしょう。

ある経営者は、かつてはちよつとしたことでも不安になり、夜も眠れないことが度々あったそうです。その後、倫理法人会で学び、実践するようになってからは、夜

眠れないということがなくなったと語ります。

もちろん何も起こらなくなったわけではありません。むしろ、以前よりも厳しい状態に直面することもありました。それでも、夜眠れたのは、心が整理できていたからに他なりません。では、その変化はどのようにもたらされたのでしょうか。

一つには、そうした招かざる状況をどう受け止めるか、ということとがあります。そのベースにあるのは、純粹倫理の苦難観です。

倫理経営の拠り所である純粹倫理では、「眼前に起こる厳しい状況は、その人を苦しめるために起きているのではない」と考えます。その真の原因を、当人の心のあり方にまで求めつつ、「苦難は、その人をより善くし、より向上させるために起こる」と捉えるのです。

ですから、苦難に見舞われても、自らの心の生活を省みつつ、しっかりとその原因と意味を捉えて、喜んで受け止めることができるのです。

いま一つは、感謝と報恩の心です。こうして事業を継続できるのは、お客様、家族、社員、取引先など、実に多くの人たちの支えがあるからです。更には、命があるのは、親祖先あつてのことです。

こうした日頃は見逃してしまいがちなことを、当たり前のものではなく「有難いこと」として感謝を深め、「その恩に報いることが自分の使命である」と、受け止めることが大切なのです。

とりわけて、恐れ、怒り、悲しみ、ねたみ、不足不満の心、それはただででない。生活を不幸にし、事業を不振にするもとであり、己の不幸をまねく根本原因であることを知らぬ。

「万人幸福の葉」
まもなく新しい年を迎えます。今年一年の苦難を含めた幾多の出来事のお陰で、自分も、わが社も、より善くなれた、また、多くのご恩に支えられてきた、と深く感謝し、心の整理を済ませて、限りない希望を持って新しい年を迎えようではありませんか。